



東京障害者職業能力開発校

設置●国／運営●東京都／創立●昭和23年
所在地●東京都小平市小川西町2-34-1
科 目●情報系（ビジネスアプリ開発科／情報システム科）、ビジネス系（ビジネス経理科／ビジネス文書科／ビジネス養成科）、医療事務系（医療総合事務科）、グラフィックメディア系（カラーDTP科／編集デザイン科）、CAD系（機械CAD科／建築CAD科）、ものづくり系（スキルワーク科製品塗装コース／スキルワーク科製パンコース）、短期ビジネス系（オフィスワーク科）、就業支援系（就業支援事務科）、実務作業系（実務作業科）、職域開発系（職域開発科）、OA実務系（OA実務科）
訓練期間●情報システム科:2年（現在新規募集なし）、短期ビジネス系、職域開発系:6カ月、就業支援系:3カ月、その他:1年

働いている姿をイメージして 訓練に取り組む



東京障害者職業能力開発校は、全国に19校設置されている障害のある人を対象とした職業訓練校の一つ。国立都営で、授業料は無料。生徒の年齢層は10代から60代までと幅広く、就業経験のある人もいる。

科目は職系別のグループにまとめられており、職系ごとに募集、一定期間共通の訓練を実施した後、適性・希望等により科が決定される。就業支援系は身体障害者、発達障害者、精神障害者、実務作業系は知的障害者、職域開発系は精神障害者、発達障害者、OA事務系（委託訓練）は重度視覚障害者、それら以外は身体障害者が対象となっている。

訓練ニーズの多様化

就業支援系の就業支援事務科は、本年4月から開始されたコースで、訓練を受けたいけれど自信がないなど、スタートがなかなか切れない人に対する導入的な意味合いをもっており、始業や終業の時間を柔軟に設定している。修了後にオフィスワーク科に進む道もある。

「就業支援事務科で支援を受け、職業訓練を受けられる体力、生活リズムなどができれば、次は専門的な訓練にステップアップできます。今後は多様な訓練科につながる仕組みづくりをしたいと考えています」（百野衛太能力開発課長。以下同）

以前の訓練対象の主体は身体障害者で、一部が知的障害者だったが、最近では精神障害者、発達障害者への訓練ニーズが高まっている。精神障害者が障害者雇用率に算定されることになり、企業の関心の高まりとともに、障

害者訓練校もいかに企業にアプローチしていくかが問われているといえる。

就職支援

生徒の職業的自立・就職のために、職業訓練指導員、生活指導相談員、就職支援推進員、職場定着支援員など専門職がチームで生徒を支援する体制がとられている。

相談の中で、何をしたらいいかぼんやりしている生徒にはそれを明確にしていく作業のほか、面接の受け方、履歴書の書き方なども指導する。また、本人、職業訓練指導員、就職支援推進員、ハローワーク職員による四者面談を行い、就職活動に役立てている。

ハローワークからの求人情報への応募によって就職する割合が多く、求人情報や合同面接会等、ハローワークと密接な連携をとりながら就職支援を行っている。

精神障害者、発達障害者の場合、職場実習先の企業に就職するケースもある。

「精神障害でもいろいろな種類がありますし、同じ種類でも人によって程度や障害の出力が違いますので、実際に本人を見てもらうのが一番です」

企業での職場実習は、実践的な訓練の場面となることに加え、生徒には会社の雰囲気慣れしてもらい、企業にはどのような生徒なのか、障害特性や人となりについて理解してもらえらる利点もある。

就職した後の職場定着にも力を入れている。職場定着支援員が、就職してから定期的な企業を訪問して本人の様子を見たり話を聞いたり、担当者から話を聞き、問題点があれば問に入っ

て改善方法を探る。職場定着には本人と職場とのマッチングがポイントとなるため、企業実習前の段階から各生徒の障害特性、適性、技術・知識のレベル、希望就職先などについて、訓練指導員、職場定着支援員等が把握し、検討したうえで実習先を決めている。

自立に向けて

職員が企業面接に同行することもあるが、フォローは必要最小限に留めている。

百野課長は、「障害ゆえにできないことがあるのは仕方ないですし、それは支援しますが、自分の頭で考える、自分の言葉で話すことができるのだったら自分でやろう、と。それが自立につながります」と話す。

「訓練の中でも、課題に対して本人がもがき苦しみがらなかなかできなくて困っているときも全面的に手助けすることはしない。その小さな壁を自分の力で一つずつ乗り越えてもらって、最終的に気づいたらこれだけの壁を乗り越えていたんだという1年間なり半年間になってもいいですね」

同校では、実際に就職して働いたときとのギャップを少なくすることに努めている。実社会に出ると、甘えていたわけにはいかないことが多々あるからだ。

「本校は職業訓練施設であるわけですが、『ここでは職業訓練を受けているという意識ではなく、働いているという意識で勉強しましょう』ということとは全科共通で言っています。自分が働いている姿をいつもイメージする。その自分になるために今こういうことをやっているわけですから」